

日本国憲法  
じゅうりんの

# 全会一致採択 秘密保護法の施行中止を

あきば議員は、この法律は内容も決め方も大問題、反対の意志をと各会派に呼びかけ、「特定秘密保護法の施行中止を求める意見書」案を他議員と共同で提出、趣旨説明に立ち全会一致採択されました。

国民の目と耳と口をふさぎ、戦争への道に突き進む秘密保護法。6月に日本共産党、社民党、無所属議員と共同で、秘密保護法の廃止法案が参院に提出され、安倍内閣の暴走に国会と国民世論が一つになって稀代の悪法廃止へ動き出しています。

古河市議会第一回定例会に出された「特定秘密保護法の廃止を求める意見書案」の継続審査を、総務常任委員会は趣旨採択としました。趣旨採択では、提出者の声が国会に届かないことになりました。

古河市議会第2回定例会が、6月4日から19日までの16日間で開催されました。認定5件、報告13件、議案14件の審議が行われ、認定、報告、議案については承認されました。

また、議員提出議案の「特定秘密保護法の施行中止を求める意見書案」は、全会一致採択されました。一般質問は、今期最多の17名が行いました。議会基本条例と議会倫理条例は、特別委員会でも継続となっています。

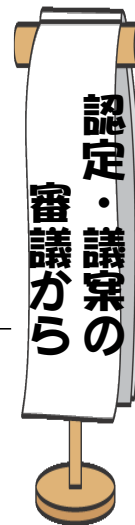
## 古河市議会第2回定例会

日本共産党



# あきば繁の 市政報告

2014年7月  
NO. 14  
発行者  
古河市議会議員  
あきば繁  
茶屋新田71-4  
TEL (48) 2139  
あきば繁の  
ホームページ  
<http://akiba.iza.yoi.net>



「古河市税条例の一部を改正」と「国保の税条例改正」の専決処分について反対しました。

反対理由は、条文中、四月一日実施の「耐震改修に伴う税負担軽減措置」は賛成。しかし、地方法人課税「法人住民税・法人税割の税率の引き下げ」は、消費税率の引き上げに伴い、地方交付税の交付団体と不交付団体の間で税

収の格差が予想され、その対策として、地方税の一部を国税化し、再配分するものです。

これによって、古河市は、年間2億円が国税化され、再配分で1億5千万円(75%)が戻るとされるも、実質5千万円の税収減になります。

国保は、一部負担軽減になるが、後期部分は窓口負担が増えます。

## これでいいのか 古河市議会

突然、副議長の辞任劇？  
当たりくじで、館野洋二副議長  
仕掛けた側が、ハズレくじ！

古河市議会は、3年前に議長・副議長、常任委員会委員長等の任期1年のタライ回しはやめ、任期2年としました。ところが、今議会で議運委員長が任期半ばで辞任し、またタライ回しの動き。

新委員長を選出後、今度は副議長が一人上の都合で辞任し、暫時休憩に。全員協議会を開催し、渡辺議員(公明)と館野議員(政策研究会)が立候補表明。投票の結果は14対14の同数でくじ引きで副議長を決定しました。

古河市議会第2回定例会

# 学校給食法60年 原点に戻るとき

## 一般質問

古河市議会第2回定例会で、日本共産党あきば繁市議は市民のくらしと営業を守る論戦を展開。積極的な提案で市政を動かし、問題点にはズバリとメスを入れ改善を求めました。

**安全でおいしい学校給食の提供 責務は、教育委員会**  
**増える給食費 給食費無料化の決断を**  
**の滞納額**

問

学校給食の起源は、明治22年、山形県鶴岡町の忠愛小学校で貧困児童を対象に無料で給食が実施されたとある。現在食育・地産地消とともに安全でおいしい給食を提供することは教育委員会の責務。

答(市長)

市長の公約通り無料化の決断をすべきではないか。

答(教育長)

9月から9500食以上を提供する給食センターが稼働するが、アレルギーや食中毒等の危機管理体制はできているのか。また、給食費の無料化は全国的な流れであり、給食費の滞納も増えている。

給食費の無料化については常に念頭に置いている。しかし年間7億円ぐらいの出費を伴うので、まずは財源を探らなければならない。

## 耐震改修／高齢者住宅対策

### 若年者定住対策など 「住宅リフォーム助成」の復活

問

住宅リフォーム助成は、利用者と市内業者から喜ばれ、経済効果も大きい施策であった。前向きに検討するとうかが、本当にやるのか。

成を考えている。どういう形で行うかは検討を重ねている。やるということをご理解願いたい。

答(市長)

若者にこのまちに住んでいただくための施策としてリフォーム助

※ 現在、「住宅リフォーム助成」制度創設自治

体は、6県・556市町村(2013年5月)

## 大督寺

藤沢修平作品「義民が駆ける」に登場する庄内藩酒井家の菩提寺



忠愛小学校のあった大督寺

## 学校給食の歴史

「鶴岡が生んだ人びと」や史実、新聞報道によると、慈善佐藤霊山(1851年～1927年)

一生を檀信徒の教化と社会事業に尽くした人。

常念時の住職となり、その頃から災害のある度に私財を投じて難民の救済にあたり、貧困家庭の子どものために日本最初の学校給食を実施した。

火災のために学校が廃止になると、忠愛協会を設立、同志とはかって月2回托鉢して基金をつくり、貧しい家庭の児童たちに学用品、雨具、昼食を与えた。

身元不明の行き倒れ死体の葬りや刑務所上がりなどの「時の鐘」を鳴らすなど、地域社会のために一生を捧げた人があります。